

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

# Documentation No.29

ドキュメンテーション



1年生の春、三溪園にて

## ドキュメンテーション学科 14期生の卒業を祝して

14期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

コロナウイルスに振り回された一年間でした。鶴見大学の入学式・卒業式、總持寺参禅会などの様々な宗教行事、ドキュメンテーション学科で企画している、新入生交流会、横浜美術館や三溪園の見学会、国立博物館の見学会、学会総会・懇親会、特別実習1での古典籍データベース作成やその成果の図書館総合展での発表、国際インターンシップや特別実習2での台湾図書館見学など、すべて中止という事態となってしまいました。

日々の授業をどう続けていくのか、いろいろな方法が検討され、たくさんの議論が行われ、結局、多くの授業はオンラインで実施されることになりました。学生の皆さんにも多くの負担を強いましたし、私たち教員も慣れない操作に手間取りました。対面・オンライン授業の教育的効果の比較と、感染拡大を防ぐために果たさなければならない社会的な責任の両者を考えての難しい判断でしたし、今後も考え続けることになります。

今年度のことはひとまずおいて、鶴見大学生としての4年間はどんな時間だったでしょうか。ぜひこの機会に、入学時の自分を思い出してみてください。その時の自分に対して、大学生活を通して、こんなことができるようになったよ、こんな良い友だちができたよ、こんなおもしろい本に出会ったよ、と報告できることをあげてみましょう。きっと、普段思っているよりもたくさん、自分は成長したのだということを感じ取れると思います。

本学科は、「情報」をさまざまな側面から学び研究する場所と位置づけています。まだコロナ後の社会がどのように変化していくのか、わからないことが多いですが、情報を取り扱っていく能力が重要度を増していくのは疑いありません。就職活動の場でそれを実感された方も多いと思います。ドキュメンテーション学科での学びを生かして、これからの人生を豊かに切り開いていけるように希望します。

ドキュメンテーション学科 田辺 良則



## 大矢一志研究室

- 岩田 直也 不動産売買における家賃設定について
- 蛸名 未空 ラーメン専門店が自分の店の魅力も知ることができるネット広告システムの提案
- 後藤 海有 自分の好きな顔を自動抽出するアプリケーションの研究 ―1人称視点のAI利用―
- 境 葉苗 PICを用いた文学部学生向けプログラミング学習環境の構築
- 椎木 彩香 知られていない魅力あるスポットを観光客と共有するシステムの開発
- 下山 莉奈 観光パンフレットから考えるホスピタリティとツーリズムの研究 ―岡山県倉敷駅前ホテルを事例として―
- 谷 未歩 萬代節用辞林寶藏の活用による江戸時代の文化理解

## 河西由美子研究室

- 平山 昌望 図書館の上映館に関する研究
- 伊東 柚葵 総合的な学習の時間における学校図書館の活動に関する研究
- 國村 直樹 公共図書館における除籍図書の有効活用に関する研究
- 中尾 悠奈 図書館のマスコットキャラクターに関する研究
- 早坂 翼 子ども文庫の歴史に関する研究
- 古田 葉 東日本大震災被災地域の図書館の歩みに関する研究
- 増渕 凜 小学生・中学生・高校生の読書傾向に関する研究 ―学校読書調査に見る10年単位の読書傾向の変遷
- 松田 秀道 公共図書館の地域資料サービスの活用に関する研究
- 山口ゆうあ ブックスタートの地域事例に関する考察
- 遊佐 雪菜 図書館のデザイン評価に関する研究

## 田辺良則研究室

- 秋野 楓 百人一首のデータベースを利用したウェブアプリケーション
- 川島 淳志 bottleを使ったコミュニケーションツールの開発
- 菊田 郁哉 プロ野球チームの戦績データ
- 酒井 宏平 中古トレーディングカードの価格相場記録プログラムの作成
- 瀬川 友生 読書推進ウェブアプリケーションの開発
- 中島 渉夢 サッカーのスタッツから見る勝因について

## 角田裕之研究室

- 磯崎 真之 日本の大学図書館における資料保存の現状と対策の提案
- 上杉 夏輝 図書館業務における人工知能(AI)の活用に関する調査・考察
- 小澤 由佳 公共図書館におけるウェブサイトの掲載内容の比較  
および大学生のウェブサイトの活用調査
- 木村 朝日 広報の観点から見た図書館展示に関する研究
- 土屋 優馨 自然災害に対する公共図書館の対応事例の考察
- 平間 琳奈 大学図書館における授業に基づくパスファインダーの比較・調査・研究
- 百枝 賢登 図書館広報における視覚を利用した広報媒体の分析及び他の広報活動への応用
- 森谷 大輝 新型コロナ感染症における全国の公共図書館の対応の調査及び比較と提案



# 2020年度 卒業論文題目





## 元木章博研究室

- 視覚障害に関する漫画のコマごとでの事例に対するタグ付けデータベース作成と教授者支援の提案 大東 紗也  
横浜市の公共図書館における障害者サービスの現状調査 ～りんごの棚の導入事例～ 作間 春華  
大学図書館における企画展示の重要性と問題について 関原 友  
大学におけるアバターを使用したオンライン講義実施に対する受講者の印象評価に関する考察 田中 美月  
日本の視覚障害者情報提供施設におけるアウトリーチの現状に関する調査と考察 松田 七海  
タグ付けしたページの情報の検索システム開発と評価 ～マンガ『聲の形』のケース～ 水島正太郎  
読書困難の解消を目的とするアクセシブルな書籍提供の実現に向けた健常者を巻き込む視点の重要性 山中貴美恵

## 加藤弓枝研究室

- 渋川版『浦島太郎』の研究 ―現代との相違点を中心に― 市川なつみ  
『曽良随行日記』から読み解く『おくのほそ道』 海老澤 拓  
草双紙『桃太郎軍記』の研究 岡澤 邑  
持統天皇像に関する考察 木村 凧沙  
百人一首の異同研究 ―「瀬をはやみ」歌を中心に― 佐藤恵里佳  
和歌における鵲の表現史 島脇 里奈  
古活字版『清少納言枕草子』の研究 鈴木 壮志  
版本『千字文』の研究 槻木淳之介  
『和歌食物本草』諸本考 土田 瑛  
栗田直政『竹取物語』と田中大秀『竹取翁物語解』の比較 細田 悠衣

## 伊倉史人研究室

- 『伊勢物語闕疑抄』の版種調査と考察 阿部あいり  
奥書・識語に使用される語句の用法に関する考察 秋山 陽  
雁金屋青山堂についての研究 大口 莉穂  
明治期野球書籍に関する研究 小笠原翔大  
書肆西村市郎右衛門の出版活動について 蔵野 春輝  
「あま」「ほととぎす」「やまぶき」の表記に関する考察 佐保田幸汰  
明治期『土佐日記』の本文に関する調査 鶴岡 大輝  
百人一首の本文研究 ―江戸期注釈書を中心に― 鶴田 瑠那  
黒川文庫旧蔵書の所在調査及び研究 水元 晴菜



## 📱 田辺良則研究室

田辺研究室では、主に情報学の分野を扱い、システム開発や統計学について取り組んでいます。今年度は週に一度 zoom を使用し、ゼミを行いました。ゼミ生と先生から様々なアドバイスをもらうことで、自分の気づかなかった点に気づくことも多く、より良い卒業論文を書くことができたと思います。また、先生には個別でも相談に乗っていただき、わかりやすく指導してもらいました。わからないことを調べるのも大事ですが、早めに助けを求めることも大切です。助けを求めれば必ず仲間や先生が助けてくれます。この1年間で「物事をまとめ、伝える力」や「問題解決能力」を身に着けることができ、自身の成長に繋がりました。 [瀬川 友生]

## 🔥 大矢一志研究室

卒業論文は計画的に進めることが大切です。非常に長い文章を書くので一夜漬けでどうにかなるものではありません。また、読む人に共感や納得感をもってもらえる文章作りが求められます。自分の考えをきちんと伝えるためにも、早い段階から計画を立てて取り組みましょう。4年生になると卒業論文と就職活動を両立しなければなりません。悩んでどうして良いかわからなくなる時もありますが、一人で頑張らずに、仲間とコミュニケーションをとりながらひたむきに取り組むことで、達成感を味わうことができるはずです。提出日が近くなるにつれて精神的に苦しい時もありますが、焦らず悔いのないように頑張ってください。 [椎木彩香]



# 2020 年度 研究室紹介

## 📖 加藤弓枝研究室

新型コロナウイルスの影響で、約1か月遅れて卒業論文指導は始まりました。演習では4班に分かれ、毎週2班ごとに発表を行いました。オンライン授業で最初は心配でしたが、授業時間外でも先生が親身に相談に乗ってくださったこともあり、次第に不安は解消されました。発表では、ゼミ生からの意見ももらえ、様々な視点から自分の研究に向き合うことができました。くじけそうになったことも何度かありましたが、否定的なことは言わず、明るく包み込んでくださった先生や仲間のおかげで、無事に書き上げることができました。後輩の皆さん、早めに取り組むことはもちろん大切ですが、行き詰まった時は、ぜひ先生やゼミ生に相談しながら頑張って乗り越えてください！ [島脇里奈]



## 📖 伊倉史人研究室

私たちのゼミでは、土佐日記や百人一首の本文系統の考察、伊勢物語の版種・版元の調査、散逸した黒川文庫の復元、明治期野球書籍の比較などを行いました。今年は新型コロナウイルスの流行で、例年のように毎週みんなが集まってゼミを開くことができませんでした。その上、図書館で参考文献や先行論文を閲覧することも制限されていました。不安が募る中、全員がかわるがわるオンラインで発表をしました。わからないところがあっても、ゼミの仲間や先生からアドバイスを貰い、次に調べ、考えることが明確になり、どんどん意欲がわいて楽しくなってきました。卒業論文を提出し終え、振り返ってみると充実した日々を過ごすことができたと感じることができました。 [小笠原翔大]







## 角田裕之研究室

角田ゼミでは、主に図書館について論文を執筆しています。研究するテーマについてわからないことや不安なことがあれば、先生が相談に乗っていただけます。今年はコロナ禍の中、毎週先生とゼミ生全員が Teams にて論文の状況確認や相談などをしていました。初めてのウェブでの演習ということもあり不安でしたが、それぞれの状況報告など問題なく穏やかに進められたと思います。論文は基本的に書き方の統一や、テーマの考え方などの指導のあと、自らの力で書き進め不安要素については先生にメールなどで相談をする形でした。図書館や本に関するテーマについて書きたい人に向いているゼミだと思います。 [平間琳奈]



## 河西由美子研究室

河西ゼミでは主に図書館学についての論文を扱います。図書館学と一口に言っても、図書館のサービスから建築まで、色々なテーマについて研究しています。2020 年度はアンケート調査やインタビュー調査が難しく、大学図書館の蔵書などを使って文献調査を行っているゼミ生が多かったです。今年度は Teams を使ってオンラインで卒業論文演習を行いました。進捗を報告し合い、一人一人先生からアドバイスもらって卒論を進めました。また、直接会うことができない分、メールのやりとりをこまめに先生から指導してもらいました。大変な1年でしたが、河西先生と河西ゼミの仲間のおかげで無事に卒論を書き上げることができました。ありがとうございました。 [増渕凜]



## 元木章博研究室

元木研究室の大きな特徴は "団体戦" であることです。卒業論文に取り組むのは自分自身ですが、その過程で先生やゼミの仲間、そして大学院生やOB・OGの先輩方と相談しながら進めていくことができます。その象徴として、春（3月上旬）と夏（9月上旬）の年2回合宿を行っています。今年度は残念ながら行うことができませんでしたが、合宿ではゼミの仲間や先輩方と交流し、卒業論文に関する相談もすることができます。合宿以外でも、先輩方がゼミを訪ねて卒業論文の相談にのってくれることもあります。このように、ゼミの仲間や先輩方等様々な視点からアドバイスをもらいながら、卒業論文に取り組むことができるのがこの元木研究室です。 [松田七海]





# 教育実習を振り返って

## 実習を通して得た2つのこと

4年 松田 七海

私は母校で2週間教育実習に行ってきました。そこで、私は実習の2日目から7クラスの授業を担当させていただきました。その中で、気付いたことは2つあります。

1つ目は、クラスごとでの雰囲気の違いです。同じ授業をしていても、クラスの雰囲気が変わると授業の進め方が変わることに気付くことができました。例えば、授業内で生徒に全く同じ質問をしたときに、生徒を指してもいないのに答えが返ってくるクラスもあれば、生徒を指しても考える時間を与えても答えが返ってこないクラスもあるという形です。同じ内容の授業をするにも、クラスごとで授業の進め方を工夫していくことが生徒の理解にとって必要になるということを学ぶことができました。



2つ目は、生徒とのコミュニケーションと信頼関係の重要性です。私が行った授業のほとんどには、演習問題を行う時間がありました。実習の初めの方は教えようと声をかけても「大丈夫です」と生徒に拒否されてしまうことがありました。しかし、授業をしていくにつれて生徒の方から「分からない」と手を挙げてくれるようになったり、「これで合ってますか？」と確認してくれたりするようになりました。2週目になると、授業の時間外に生徒の方から「プリントの解き方を教えてほしい」と声をかけられるようになりました。2週間という短い間であったものの、生徒が少しずつ信頼してくれていることを実感できたことがとても嬉しかったです。そして、生徒との信頼関係が授業をするうえで大切なことの一つであるということを実感しました。

2週間あっという間でしたが、とても充実した経験ができたと考えています。お忙しい中でこのような経験をさせてくださった母校に感謝でいっぱいです。

## 自分らしい授業ができるように

4年 伊東 柚葵

教育実習は大変でしたが楽しかったです。大学での授業だけでは学べない現場の雰囲気や授業をする上で気を付けなければならないことを学ぶことができました。

情報科ということもあって、授業はパワーポイントやパソコンで行いました。タイピング練習を実習校ではやっていました。また、知識だけではなく、実技的なことも行っていました。学科に入ったばかりのころを思い出して懐かしくなりました。



情報科では普段使っていても見えないところや、始めて目にする言葉を教えます。そのため、どれだけ生徒の実生活に沿った例示ができるか、わかりやすい表現ができるかに苦心しました。例えば、インターネットの仕組みを道案内や糸電話など、具体的なものに置き換えて説明をしていきました。私自身が完全に理解して生徒たちに教えられているわけではないため、とても不安でした。担当の先生からは合っているから自信をもってと言われ、自信を持てるようになりました。しかし、まだ教壇に立つには知識不足であるとも痛感しました。

コロナ禍のため、生徒たちも先生方もマスクをされていました。そのため、生徒一人一人の名前と顔を一致させることができず、大変でした。担当していたクラスで授業を行うことが少なかったこともあり、最後まで全員の名前と顔を一致させることができませんでした。

3週間という短い期間で、最後には自分らしい授業ができるようになったと評価されました。回数を重ねるごとに生徒の様子や授業の方法が自分の中で確立できるようになりました。クラスの子たちからも、明るく挨拶をされて元気がでたと言葉をもらいました。これから教育実習に行く人は、明るく生徒たちに接すること、できるだけ多くの授業を行い、どうやって授業するか生徒はどんな反応をするかを見ることが大事だと思います。



## No.19

### 【アムステルダム中央公共図書館〔アムステルダム、オランダ〕】

OBA Oosterdok, Amsterdam, Netherland / The Central Library of Amsterdam, Netherlands

アムステルダム中央駅正面から東に伸びる線路沿いを歩いて3分もするとアムステルダム中央公共図書館に辿りつく。オランダの建物はどれもデザインが優れているが、2007年に出来たこの図書館も超近代的な意匠で遠くからでも直ぐに見つけることができる。

この図書館のデザインの良さは外見ばかりでない。中のフロアも空間を上手く使い、開放感がありながら、個人の空間を大切に作る工夫が細かなところまで配慮されている。

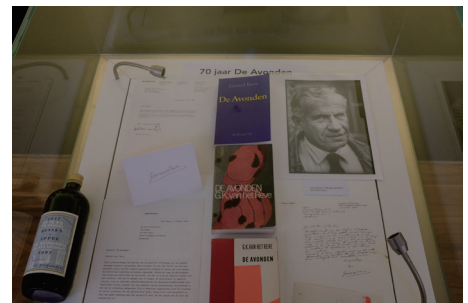


ここは次世代の図書館であっても書籍が基本であることを忘れていない。広いフロアに低い高さの書架が多く並び、探しやすいレイアウトになっている。雑誌のコーナーでは、オランダ語に加えて英語の雑誌も数多く揃えてあり、音楽の雑誌だけで80誌近くあった。各フロアにある閲覧席は様々なスタイルが用意され、さらに円形のセミナー室や、シアター、会議室、小規模なホールなど、多様な活動に応える空間が用意されている。椅子の種類も幾つあるのかわからない程多い。

本棚の側面や壁際には至るところに展示ケースがあり、それぞれに嗜好を凝らした展示がされている。殆ど棚のコーナー毎にある展示ケースの数にまだ展示企画が追いついていないようで、幾つかのケースはまだ空っぽであった。2Fの雑誌コーナーにはカフェが併設され、最上階にもセルフサービスのレストランフロアがあり、アムステルダムの街が一望できるテラス席も用意されている。

多くの公共図書館を訪問してきたけれど、身近にあって欲しいと思った一番の図書館かもしれない。ここは図書館ではあるのだけれども、本を読むためだけの場所として作られていない。図書に加えて静寂と安全が提供される公共空間になっている。地下にある子供向けのフロアに子供を預け、お父さんは上の階で仕事に出かけていった。図書館にカフェを作り人が集まる場所にすることが公共空間と単純に考えている日本の図書館は、ぜひこの図書館の哲学から学んで欲しいと思った。

(大矢一志)



アクセス：アムステルダム中央駅の南口にあたる市中心地側の出口を出て、左手に進み、運河を超えるとすぐ。

開館時間：最新の開館時間は web サイトを参照のこと。

アドレス：Oosterdokskade 143 1011DL Amsterdam <https://www.oba.nl/oba/english/central-library.html>



# コース選択

## 図書館学コース レファレンスサービスを学びたい

2年 飯島 美琴

私は来年図書館学コースに進もうと考えています。

ドキュメント処理演習Ⅰでは、実際に刊行されている本の情報を記録し、分類する方法を学びました。ある本を分類する際に、歴史に分類するか、地理に分類するか迷ったことがあります。歴史の中でも複数の時代を含む場合のやり方など細かい決まりが多く問題を解くの慣れるまで時間がかかりました。

私はこれから前期で学んだレファレンスサービスについてもっと学びたいと考えています。利用者から受ける質問は曖昧なものが多く、そこからどのようなテーマや目的で利用するのか会話の中で察して答えを提示するのが想像していたよりも難しかったです。相手の考えを引き出す話術が足りないので、レファレンスサービスについて学べる授業で回数を重ねて慣れていきたいと思いました。

## 情報学コース 情報科社会に貢献したい

2年 光田 裕貴

私は情報化社会に貢献できる人材になるために、情報学コースを志望します。

私は高校生の進路選択のときに、好きな分野を決めることができませんでした。友人たちが進路を明確に決めて、その目標に向かい努力をしていることが羨ましかったです。そこで私は、自分に足りないものは情報と知識だと考えました。世間にはどのような学問や職業があるのか、どのように社会へ貢献するべきかを知り、情報を読み解く力を身につけたいと思いました。

現代社会で有用な情報を得るためには、パソコンやスマートフォンなどの電子メディアを駆使する必要があります。情報学コースで情報処理技術の基礎理論から応用分野まで学び、電子メディアを有効活用できるようになりたいです。

将来は身につけた知識や技術を用いて、情報関連企業などで活躍したいと思います。私のように目標を明確にすることができない人のために、情報化社会を生きる術を教えられる人材になりたいです。

## 書誌学コース 昔の本を読めるようになりたい

2年 二木 咲耶

文豪の作品の自筆原稿等、もともと昔の本に興味があり、くずし字が読めたらカッコいいだろうと思っていた。そして、二年生の時に書誌学基礎演習を受講したのが書誌学コースに進む決め手であった。古い書物を実際に触れることができるなんて考えていなかったのも、とても貴重な経験をした。もっといろんな書物に触れてみたいし学びたいと思った。

私は主に、昔の書物を読めるようになりたいと思っている。歴史的な仮名遣いや、くずし字を学ぶのはこの先絶対にないと思うし、せっかく大学で興味のあることが学べるのに、学ばないと後悔すると思った。

書誌学コースで学んだことが将来なんの役に立つのかは想像ができないが、くずし字が読めたら、日常の中で昔ながらのお店の看板なども読めて楽しいと思った。

- ☐ 「ドキュメンテーション」第29号をお届けします。14期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。
- ☐ 学生生活の締めくくりの年をコロナ禍の中で送ることになってしまい、卒業生の皆さんにはほんとうに残念でした。
- ☐ 感染状況が収束し、いつか、どこかで、また皆さんと会える日を教員、スタッフ一同楽しみにしています。

ドキュメンテーション 第29号 令和3（2021）年3月13日（土）

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 ☎045(581)1001 発行責任者：大矢一志  
学科ホームページ：http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/ 学科ブログ：http://blog.tsurumi-u.ac.jp/docu/